

知事より職員の方へ

<平成22年度の県政運営にあたって>

平成22年4月1日

知事 豊田 昭彦

職員の方へ、平成22年度の県政運営にあたっての私の思いをお伝えします。

○新しい時代を切り開く情熱・勇気・気概を

景気低迷が依然として続き、社会の中にはさまざまな歪みが顕在化し、貧困や格差が広がるなど、今、私たちは大きな時代の峠を迎えています。

国民の間には不安感、閉塞感が漂い、チェンジを求めた結果、昨年夏の総選挙によって政権交代につながりました。

このような状況の中で、新年度が始まりました。

こうした時代の峠だからこそ、この峠の先にある社会では、人々が将来に希望を持ち、安心して暮らすことができるものにしていかなければなりません。

この新しい時代を切り開いていくには、かつての江戸末期から明治維新を経て、近代国家を切り開いていった時代に活躍した人たちのように、ほとぼしる情熱、くじけない勇気や気概といったものが、今こそ私たちに求められているのだと思います。

本年度は県政の上でもたくさんの困難な課題がありますが、職員の方には情熱・勇気・気概を持って、果敢に取り組まれていくことを心から期待しています。

○基本に立ち返り総合力の発揮を

こうした難しい時代だからこそ大事にしたいのは「基本」に立ち返ることです。

私たちの「基本」とは、「職員一人ひとりの行動基軸」です。

誰のため何のための県政かを常に考え、笑顔の対話、そして不断の工夫・改善を忘れずに取り組んでいくことが、きっと県政の課題解決につながります。

また、困難に立ち向かうには、チームワークが不可欠です。そのために、特に「対話」を重視し、一人ひとりの力を結集しながら、チームとしての高い総合力を発揮することを期待しています。

これまで磨き上げてきた職員の方の力を結集して、新しい時代を切り開いていこうではありませんか。

1 職員一人ひとりの行動基軸

① 信頼される公務員をモットーにします。

法令を遵守し、「公平・公正・透明」を基本に、誰のため、何のための県政かを常に素直に考え、感性を高め、県民の皆様の要望や意見に、真摯に対応します。

② 対話を促進します。

笑顔の対話を職場の風土とし、チームワークを高めます。一人ひとりの気づきと納得に基づき、率先実行取組を着実に実行します。

③ 工夫して不断の改善に努めます。

常に求めて学び、互いに切磋琢磨します。これまでやってきたことに批判眼をもって取り組み、日常業務において不断の努力を積み重ね、改善していきます。

特に、幹部職員は、常に使命を自任し、職員の先頭に立って情熱と勇気・気概を示すと共に、所管する組織の行政能力を最高に発揮できるようリーダーシップを果たします。

また、この行動基軸の定着の第一歩として、全職員があいさつ、整理整頓を励行し、明るい職場づくりに努めます。幹部職員はそれを率先垂範します。

2 平成22年度の政策展開にあたって

○ 県政の最優先課題として取り組む「緊急雇用・経済対策」の推進

県政の最優先課題として、雇用対策、経済対策、生活対策を柱とする「平成22年度三重県緊急雇用・経済対策推進方針」に基づいて取り組むとともに、官民で構成する「三重県雇用・経済危機対策会議」での議論も踏まえ、追加的な対策が必要な場合は、迅速、的確に対応します。

○ 最終年度を迎える「第二次戦略計画」の推進

平成22年度は、「第二次戦略計画」の最終年度として、重点的な取組に掲げる目標や施策目標に向けて全力で取り組み、数値目標のみならず、その目的やめざすべき姿の達成、プログラムの進化に向かって計画の推進をはかります。

○ 国の動向への的確な対応

国においてこれまでの方向を大きく転換する政策の具体化や検討が進められています。

国の動向に留意し、迅速に対応するとともに、地域主権社会の構築を確固たるものにするため、国に対する積極的な提案や、行政能力を高める取組を進めます。

○ “文化力立県”を象徴する事業などの推進 ～「文化力」を原点に～

“文化力立県”の2年目の年として、本県の文化力を象徴する事業である「^{うま}美し国おこし・三重」、新県立博物館、県立病院改革などについて、着実に推進します。

○ “希望を持って生きられる社会”に向けて

県民一人ひとりの「希望の舞台づくり」として、平成23年度からはじまる次期戦略計画の策定作業を進めます。